令和６年度

学校図書館の活用にかかる

実 践 事 例 集

岩手県学校図書館協議会

令和６年度実践事例集の発刊にあたって

岩手県学校図書館協議会
会長　三 浦 建 成

今年度もまた、本協議会研究活動推進事業として「学校図書館の活用にかかる実践事例集」を発刊することができました。ご尽力いただきました各地区ＳＬＡをはじめとする関係の皆様に、改めまして厚く御礼を申し上げます。

本事例集には、学校図書館の活用について、地域や児童生徒の実態に応じたさまざまな取組の好例が紹介されています。参集して行う研究大会等の機会が減り、各地区が互いに実践を交流したり協議したりできる場も限られる中、本実践事例集が手掛かりとなり、読書指導や授業支援・情報活用、学校図書館運営等について、自校学校図書館の充実や改善に結びつく内容であるものと思っております。

さて、学校図書館に期待される機能や役割はさまざまありますが、実際の図書館を見たときに、ひとりで図書館に来て本を選び、静かに本を読んで、時間が来ると実にすっきりした表情になり教室に戻っていく子がいます。慌ただしい学校生活の中で、図書館は夢中になって本を読んだり、ほっと息をつける場所であったりするのでしょう。いろいろな思いをもちながら学校生活を送る子どもたちにとって、居心地の良い、また来たくなる場所としての学校図書館づくりも大切な視点であると考えます。本事例集には、具体的実践内容として、まさにさまざまな取組が掲載されておりますので、自校の現状に応じた環境整備やボランティア等との連携についてヒントを得ていただければ幸いです。

結びに、本実践事例集の作成に当たり、実践をお寄せいただいた各学校の先生方や司書の皆様、今年度の事業の推進にご協力を賜りました関係の皆様に感謝と御礼を申し上げ、発刊にあたっての御挨拶といたします。

目　次

◆ 小学校 ◆

「図書館ボランティアとともに作る“行きたくなる図書館”を目指して」
盛岡地区SLA　盛岡市立北厨川小学校…1

「全校児童の多読賞Getに向けて！」
岩手地区SLA　岩手町立一方井小学校…2

「本に親しむ児童の育成を目指して」（読書指導領域）
八幡平地区SLA　八幡平市立平笠小学校…3

「進んで読書に親しむ児童の育成を目指して」
雫石地区SLA　雫石町立御所小学校…4

「読書に親しむ児童の育成を目指して」
紫波地区SLA　紫波町立古館小学校…5

「子ども達が利用しやすい図書室を目指して」
花巻地区SLA　花巻市立大迫小学校…6

「読書に親しむ児童の育成」
遠野地区SLA　遠野市立小友小学校…7

「読書に親しみ、読書の楽しさや喜びを味わう児童の育成」
北上・和賀地区SLA　西和賀町立湯田小学校…8

「本と出会い、本に親しむ子どもの育成を目指して」（読書指導）
胆江地区SLA　奥州市立水沢小学校…9

「読書活動の推進と読書環境の整備の取組」
一関地区SLA　一関市立赤荻小学校…10

「読書意欲を高め、読書の世界を広げよう」
陸前高田地区SLA　陸前高田市立高田小学校…11

「児童が親子で本に親しむための取り組み」
大船渡地区SLA　大船渡市立越喜来小学校…12

「本に親しむ活動　～より効果的な読書の機会を～　（読書指導領域）」
釜石・大槌地区SLA　釜石市立双葉小学校…13

「進んで読書をする子、本好きの子を育てるために」
宮古地区SLA　宮古市立鍬ヶ崎小学校…14

「児童の読書活動への意欲を高める取組の工夫」
岩泉地区SLA　岩泉町立小川小学校…15

「本に親しむ子供を目指して」
久慈地区SLA　洋野町立大野小学校…16

「児童に読書への興味をもたせる図書館祭りの取組」
二戸地区SLA　軽米町立軽米小学校…17

◆ 中学校 ◆

「本が動く居心地の良い図書館を目指して」
盛岡地区SLA　盛岡市立大宮中学校…18

「学校図書支援指導員と連携した図書室の環境整備と、読書推進活動の取組について」
岩手地区SLA　岩手町立一方井中学校…19

「POPで読書推進」
八幡平地区SLA　八幡平市立安代中学校…20

「読書活動の推進をめざして」
雫石地区SLA　雫石町立雫石中学校…21

「読書に親しみ、誰もが利用しやすい図書室づくり」
紫波地区SLA　矢巾町立矢巾北中学校…22

「気軽に本に触れることのできる図書室を目指して」
花巻地区SLA　花巻市立宮野目中学校…23

「『読書』のある学校生活づくりを目指した実践の試み」
遠野地区SLA　遠野市立遠野西中学校…24

「読書・図書館に親しむ生徒を増やす活動」
北上・和賀地区SLA　北上市立北上北中学校…25

「生徒に読書と本をつなぐ図書館活動」
胆江地区SLA　奥州市立水沢南中学校…26

「生徒の読書に親しむ態度や望ましい読書習慣を育成する取り組み」
一関地区SLA　一関市立舞川中学校…27

「学校図書館利用活性化に向けて　～全校ビブリオバトルを通して～」
住田地区SLA　住田町立住田中学校…28

「読書推進を目指す活動の工夫」（読書指導領域）
陸前高田地区SLA　陸前高田市立高田東中学校…29

「充実した読書活動のための図書館づくりを目指して」
大船渡地区SLA　大船渡市立大船渡中学校…30

「児童生徒が進んで通いたくなる図書館（本の森）運営」
釜石・大槌地区SLA　大槌町立大槌学園…31

「目指す図書館像を明確にした学校図書館運営の工夫」
宮古地区SLA　宮古市立第二中学校…32

「読書に親しむ態度や読書習慣を育成する取り組みについて」
岩泉地区SLA　岩泉町立岩泉中学校…33

「自主的に読書する生徒の育成」
久慈地区SLA　洋野町立中野中学校…34

「生徒が読書に親しみ、心豊かな生活を送るための環境づくりについて」
二戸地区SLA　二戸市立金田一中学校…35

「図書館ボランティアとともに作る“行きたくなる図書館”を目指して」

盛岡地区ＳＬＡ　　盛岡市立北厨川小学校

1　学校図書館の概要

本校は、児童数２２８名、１１学級（特別支援３学級含）で、約６７００冊の蔵書を有している。図書館運営は、図書担当教員２名、ＰＴＡ図書ボランティア「どんぐりズ」（１４名)、図書委員会児童（１５名）で行っている。これまでに総貸出冊数９８００冊、一人あたり約４３冊が貸し出されている。

図書室のほかに学級分館を設置し、古いけれど人気の本やその学年の学習に役立つ本を配架し、自由に借りられるようにしている（それらは貸し出し冊数には入っていない)。

2　具体的実践内容

(1)　図書ボランティア「どんぐりズ」の活動と実績

＊「どんぐりズ」は、保護者と地域ボランティアで構成されており、「読み聞かせ部」（６名）と「修理・環境整備部」（８名）に分かれて作業を行っている。

①読み聞かせ

・毎月、１～２回、学級の要望に合わせて朝学習の時間に実施している。

・要望があれば、行事や国語の単元に合わせて、１単位時間の読み聞かせにも応じている。

②修理・環境整備

・毎週水曜日の午前中に、本の修理と季節の飾りつけを行っている。

・本の修理は、先輩が新しく入ってきた人に丁寧に教え、技術が安定している。講習にも進んで参加している。

・掲示物作成が得意な方もいて、季節に合った掲示を作ってくださり、子どもたちにも好評である。

・本の整頓や図書室の清掃など、気付いたことも進んで行ってくれている。

(2)　委員会活動

①常時活動

・業間休みと昼休みに貸し出しを行う。

・担当する棚を決め、おすすめの本を展示したり、棚を整頓したりして、借りやすい状態を保つ。

・担当学級を決め、不読者が出ないように呼びかけをしたり、多読賞を贈ったりする。

②図書祭り

＊今年度の学校テーマは「Try For Happiness！～夢はみんなのすぐそばにある！～」を受けて、図書館テーマを「ホントの（本との）出会いは　すぐそばにある」とし、様々なジャンルの本にチャレンジするように計画した。

・６月は、図書室に来る習慣をつけるために、多読を目標にする。

・１１月は、読書傾向に偏りが出ないように、また、違うジャンルの面白さに気付けるように、図書ビンゴで９種類の本を読むことを目標にしている。

3　成果と課題

(1)成果

・昨年度の同時期と比較すると平均読書冊数は、35.1 冊から 43.1 冊と増加傾向にある。また、図書祭りで取組を行った月は平均９冊（何もない月は 4～5 冊）と意欲を高める一助となっている。

・図書ボランティアさんの協力の下、居心地の良い図書室になり休み時間に本を読みに来る児童が増えた。

(2)課題

・数年前に比べると読書量が減ってきていること。

・読ませたい本を購入するか、読まれる本を購入するかの判断。

「全校児童の多読賞Ｇｅｔに向けて！」

岩手地区ＳＬＡ　岩手町立一方井小学校

１　学校図書館の概要

本校は、令和元年に「バーコード貸出しシステム」が導入され、毎週水曜日に町の図書支援員が配置された。令和２年度には「読書おもいで帳システム」が導入され図書室の整備充実が図られた。

思い出帳　記帳の様子

２　具体的実践内容

（１）読書指導

①読書冊数の学期ごとの目標を立て、意欲を高める。

・1学期…低学年50冊、中学年30冊、高学年20冊

・2学期…低学年80冊、中学年35冊、高学年20冊

・3学期…年間で低学年150冊、中学年80冊、高学年50冊

②国語科の単元に関連した本の一覧を読書記録に載せ、並行読書ができるようにする。

③毎月移動図書館「おおぞら号」を活用し、学級文庫として本棚を設け、たくさんの本が読めるようにする。

④借りた図書が読書通帳「読書おもいで帳」に記帳されるようにし、読書の振り返りができるようにする。

⑤読み聞かせボランティアと連携し、月２回程度、各学年に相応しい内容の図書の読み聞かせをする。

図書委員会の紙芝居

（２）読書時間の確保

①朝読書

・水曜日の朝活動時間に読書をする。

・1年生には、1学期の前半は図書委員会や担任による読み聞かせを行う。

②すきま読書

・机の脇の絵本バックに常に本を入れ、空いた時間にいつでも読めるようにする。

・家庭学習に読書を位置づけ、家庭における読書習慣を身に付けられるようにする。

長期休みの親子読書

（３）長期休業中の親子読書の取組

・親子で同じ本を読み、親子で感想を書き、参観日には校内に展示する。

（４）図書委員会の読書推進

・昼の放送では、図書委員会からのコーナーが設けられ、その日の図書当番が本の紹介等行う。

・今年度１１月の図書館祭りでは、図書委員会による「読み聞かせ」や「読書ビンゴでしおりプレゼント」、「貸出冊数くじ引き」等が行われた。

３　成果と課題

成果…多読賞は、「おもいで帳」「読書の記録」の合計冊数で集計している。今年度はほとんどの児童が学期ごとの多読賞シールをもらっている。様々な取組をすることで、読書意欲が高まり、本に親しむ姿が多く見られた。

課題…読書の質を向上させるため、「読書の記録」に紹介しているおすすめの本を読ませたい。今後は、各教室におすすめの本のコーナーを設置してみてはどうかと考えている。

「本に親しむ児童の育成を目指して」（読書指導領域）

八幡平地区 SLA　八幡平市立平笠小学校

１、学校図書館の概要

本校は全校児童３４名で、図書室は２階に位置している。図書の貸出しは基本的に各学級で図書室へ行く時間を設け行っている。週に１度、図書館司書が図書室の整備、新刊図書の選定や受付、新刊図書案内の作成・掲示等をしている。

２、具体的実践内容

① 朝読書の時間の設定（毎週月曜日２０分間）

② 年間読書目標冊数の設定と各学期の目標冊数の設定と多読賞の表彰。

学　年	１学期	２学期	３学期	年間（おすすめの本）
１・２年	２５冊	４０冊	１５冊	８０冊（２５冊以上）
３・４年	２０冊	３０冊	１０冊	６０冊（１５冊以上）
５・６年	１５冊	２０冊	５冊	４０冊（１０冊以上）

③ 月１～２回、低・中・高学年にわかれ、図書ボランティアによる本の読み聞かせ。

④ 読書月間（１１・２月）の設定

・図書委員による読書ビンゴの企画（おすすめの本など、各学年９冊ずつビンゴカードに提示し、ビンゴになったら図書委員が作った栞をプレゼント）

・図書館司書による読み聞かせ（低・中・高学年ごと）

・交流読書（朝読書の時間に１・６年、２・４年、３・５年でペアになり、各自で読書した後、自分が読んでいる本についてあらすじや感想を交流する。

・【本の紹介】と【くるくる読書】（図書委員による企画）

おすすめの本の紹介カードを書き、図書室前に設置された『おすすめの本コーナー』の壁に掲示する。『おすすめの本コーナー』に掲示してある友達のおすすめの本を読む。読んだら紹介カードの脇に付箋紙を貼っていく。

図書ボランティアの読み聞かせ

図書館司書の読み聞かせ

交流読書

交流読書

３、成果と課題（成果○、課題△）

○各学級での呼びかけや、委員会の工夫した活動により、多くの児童が図書室を利用できている。

○図書ボランティアや図書館司書による読み聞かせは好評で、読まれた本を借りるようになった。

○図書館司書の尽力により、多様な分野の新刊の購入と魅力的な紹介ができている。

△冊数を増やすことに偏りがちな傾向にあり、本を借りても読まずに返す児童もいるため、様々なジャンルに親しむことができるような工夫をしていく必要がある。

「進んで読書に親しむ児童の育成を目指して」

雫石地区 SLA　雫石町立御所小学校

1　学校図書館の概要

本校は、全校97名の小規模校である。図書室は2階にあり、吹き抜けで明るい廊下にも本棚が設置してある。窓側に机や椅子が置いてある他、絵本コーナーや廊下には、児童がくつろいで本を読むことができるように腰掛けて本を読むスペースや畳が置いてあり、そこで休み時間に本を読む児童もいる。

雫石町の図書ボランティア「おはなしの雫」に依頼し、全学級での読み聞かせを1年に4回ほど実施している。

2　具体的実践内容

(1)朝読書の時間の設定　（月・金曜日の朝活動の時間）

(2)年間読書目標冊数の設定（低学年100冊　中学年80冊　高学年60冊）

(3)図書委員会の活動

①　七夕集会

・プレゼンソフトを利用して「七夕のお話」の読み聞かせを行った。

・七夕にちなんだ本を紹介した。（今年度は、「10ぴきのかえるのたなばたまつり」「たなばたものがたり」「星座と神話」）

〈七夕集会〉

②　11月の読書月間

・読書スタンプラリー…休み時間に図書室で本を読んだり、本を借りたりするとスタンプが1個もらえるカードを図書委員が作って配付した。10個たまるとシールをプレゼントし、15個たまるとさらにシールをプレゼントした。10個・15個達成の児童を放送で紹介した。

・読書フェスティバル…保護者の読書ボランティアさんに本を選んでいただき、それを、パソコンを利用して大きく提示しながら読み聞かせをしていただいた。また、先生方が選んで購入した本の中から、低学年向け・高学年向けの本を取り上げて、図書委員会がおすすめのポイントを紹介した。

・紙芝居…今年度購入した新しい紙芝居を読んだ。

〈読書フェスティバル〉

③　読書クイズ

・昼の放送の時間に、図書室にある本の中からクイズを出題した。

④　読み聞かせ

・学年に合わせた本を選び、朝読書の時間に読み聞かせを行った。（学期ごと）

⑤　読書冊数調べ（学期ごと）

(4)新刊図書の購入

・先生方が選定した本を購入し、新刊図書のコーナーを設置した。興味をもってもらえるように、昼の放送で紹介したり、担任の先生が読み聞かせをしたりした。

3　成果と課題

○自分の目標冊数を4月に決めて貸し出しカードに書くことによって、目標を意識しながら読書活動に取り組むことができている。読書フェスティバルや読書スタンプラリーの取り組みのおかげで図書室に通う児童が増えた。児童も楽しみにしているので今後も続けていきたい。

●読書冊数の少ない児童も本に親しむことができるようにさらに工夫していきたい。また、図書室の本の整備を行うための工夫も考えていきたい。

「読書に親しむ児童の育成を目指して」

紫波地区 SLA　紫波町立古館小学校

1　学校図書館の概要

本校は、全校児童４５７名の大規模校である。図書室は３階にあり、蔵書はすべてデータベース化されている。業間と昼休みには、図書委員が本の貸し出しや整理を行っている。また、図書コーディネーターが週１回来校し、季節に応じた装飾や図書の設置など、児童が楽しく利用しやすいように、環境整備を行っている。

本を見つけやすくするための分類番号・作者名のあいうえお順の表示。

2　具体的実践内容

（１）図書館環境整備

分類番号や作者名のあいうえお順の表示により、本を見つけやすくする。

（２）朝読書・ボランティアの方々による読み聞かせ

毎週月曜日の朝の時間（８：１０～８：２０）を「読書の時間」としている。低学年は、図書ボランティアの方々による読み聞かせを行っている。毎回、その学年にふさわしい本を選んでいただき、児童も楽しみにしている。

（３）図書委員会の活動

①　低学年への読み聞かせ（６月）

図書委員会が低学年に向けて、読み聞かせを行っている。

②　読書の木（１１月）

一冊読んだらシールを一枚はるという、「読書の木」の取り組みを行っている。他にも、児童朝会での図書クイズなど、読書への関心を高める活動を行っている。

低学年の児童のことを考え、読みやすい本、興味のある本を選び、読み聞かせを行った。

（４）親子読書

長期休みの読書を推進する目的で「親子読書」に取り組んでいる。親子で一緒に本を読み、感想を書いて交流する機会としている。また、掲示により、親子交流の様子を校内で共有し、読書の幅を広げる手立てとしている。

（５）多読賞の表彰

年間目標冊数（低学年７０冊、中学年５０冊、高学年４０冊）を設定している。学期末や学年末に達成者を表彰することで、読書への意欲付けを図っている。

11 月の読書旬間に行った「読書の木」の取り組み。どの学級も一生懸命取り組み、読書の木にたくさん花が咲きました。

3　成果と課題

〈成果〉

・図書委員会を中心に、全校の児童に読書に親しんでもらうための活動を行うことができた。

・図書コーディネーターを中心に、図書館の環境整備を行うことができた。

〈課題〉

・読書をよりしたいと思えるような環境整備を継続して行う。

・図書館へ行く日や週を設定し、年間を通して行う。

「子ども達が利用しやすい図書室を目指して」

花巻地区 SLA　花巻市立大迫小学校

1　学校図書館の概要

本校は、全校生徒１１１人の学校である。各階に図書コーナーや本棚はあるのだが、図書室は三階にあるため、５，６年生は利用しやすいのだが、１，２年生が三階まで上がって貸し借りをすることが大変であった。

2　具体的実践内容

（１）　図書室を二階へ

令和５年に１５０周年を迎えるので、三階から二階へ「図書館引っ越しプロジェクト」を立ち上げ、子ども達が本のバケツリレーをして本を移動した。自分たちの手で本を引っ越すことで、「こんなにたくさんの本があったんだ」「今度この本を借りてみようかな」という声も見られた。

（２）「読書おもいで帳」の活用

創立１５０周年記念事業で「読書おもいで帳」システムを導入した。このシステムにより、小学校の図書室と大迫図書館のどちらの本を借りても借りた本を記帳できるようになった。本を借りるとすぐに記帳できるため、児童は本の貯金をためるかのように楽しんで本を借り、記帳をしている。

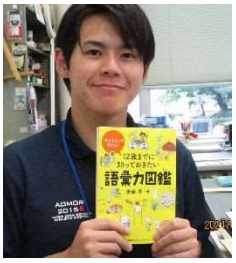
（３）図書ボランティアによる支援

本校では、読み聞かせをしてくださる「たんぽぽの会」があり、全校が大迫の昔話の紙芝居を読んでもらったり、学級で本の読み聞かせをしてもらったりすることで本に親しんでいる。

また、大迫図書館から図書館支援として月１回、本の整備や修理、捜索などをしてもらっており、今年度は「いわ１００きっず」コーナーの本を整備してもらった。

さらに、保護者からの図書ボランティアにより、月１回、本棚の整理をしてもらっている。新しくなった図書室をすぐに利用できるように整えてもらっている。

図書室が新しくなったので、委員会の活動としてミニ図書祭りを行い、先生方のおすすめ本コーナーを作った。「いわ１００きっず」コーナーと共に大好評であった。



3　成果と課題

（１）　成果

図書室が三階から二階になったことで、１，２年生も使いやすくなった。自分たちが運んだ本が並んでいることで、本に対しての親しみもわき、どこにどんな本があるのかも詳しくなってきた。

（２）　課題

図書祭り等のイベントがないと図書室を利用しない児童もいるので、日常的に本に親しむ時間や機会を積極的に提供していきたい。

「 読書に親しむ児童の育成 」

遠野地区ＳＬＡ　遠野市立小友小学校

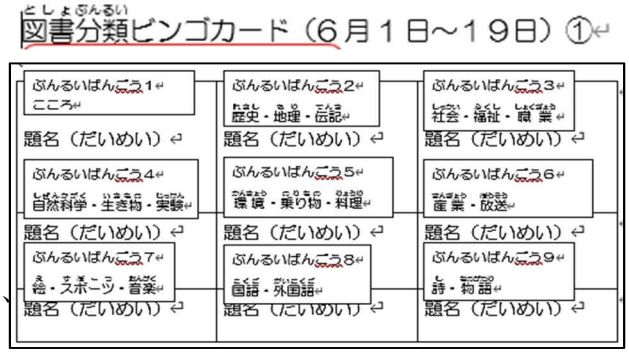
１　学校図書館の概要

本校の児童数は 30 名で図書室は 1 階に位置し、蔵書冊数は約４，９７４冊である。図書管理システム「スクールプロ」を利用し、児童で構成する図書員会の児童と学校職員の担当者で運営している。また、地域の図書ボランティア（うさぎのみみ）が、月曜日の朝に学級（複式学級）毎に本の読み聞かせをしてくださり連携を図っている。

２　具体的実践内容

（1）図書分類ビンゴカード

図書ビンゴは、特定のジャンルに基づいた図書を子どもたちに読ませていった。ビンゴ形式で進めることで、子どもたちは楽しみながら様々なジャンルの本に触れることができた。これにより、読書の幅が広がり、興味のある分野を見つけるきっかけとなった。



〈図書分類ビンゴカード〉

（2）教師のおすすめ本コーナー

図書室内に教師のおすすめ本コーナーを設置した。このコーナーでは、教師が選んだ本を紹介し、子どもたちに読書の楽しさを伝えた。教師自身が読んで感動した本や学びの多い本を紹介することで、子どもたちの読書意欲をたかめることができた。

〈教師のおすすめ本コーナー〉

（3）図書委員会の読み聞かせ

図書委員会の子どもたちが、学級の子どもたちに向けて読み聞かせを行った。この活動は、図書委員会の子どもたちにとってリーダーシップを発揮する機会となり、また、聞き手の子どもたちにとっても新しい本との出会いの場となっていた。読み聞かせを通じて、子どもたちは物語の世界に引き込まれ、読書の楽しさに触れると共に、読書への興味をさらに深めることができた。

〈図書委員会の読み聞かせ〉

３　成果と課題

〈 成 果 〉

・図書ビンゴや読み聞かせ活動を行うことで、子どもたちの本に対する興味や関心が広がった。また、子どもたちが普段手に取らないような本にも興味を持たせることができた。
・図書委員会の子どもたちがリーダーシップを発揮する機会となった。

〈 課 題 〉

・子どもたちの興味やレベルに合った本を選ぶのが難しい場合があった。
・ビンゴを完成させるために、一定の読書量が必要であり、読書が苦手な子どもには負担となることがあった。

「読書に親しみ，読書の楽しさや喜びを味わう児童の育成」

北上・和賀地区ＳＬＡ　西和賀町立湯田小学校

１　学校図書館の概要

本校は，学級数８（特別支援学級２を含む），児童数６９名の小規模な学校である。図書室は，どの教室からも行きやすい２階の中央に位置している。蔵書冊数は約７，５００冊あり，学校図書館図書標準の蔵書冊数に達している。国語をはじめ，各教科に関連した図書も揃っている。

２　具体的実践内容

（１）　読書活動推進の取り組み

①　目標冊数の設定と目標達成に向けた取り組み

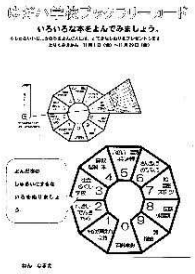
本校では，図書室における年間の貸出目標冊数（低学年１１０冊，中学年８０冊，高学年６０冊），月毎の目標冊数を設定している。図書館教育担当は，定期的に，借りた書名，冊数を記録した「読書の記録」を児童一人一人に渡し，児童は個別のファイルに閉じている。また，借りた本は，児童が図書室にある機械を使い，各自「読書おもいで帳」に記帳するようにもしている。これらにより，児童は，毎月，さらには入学から卒業までの自分の読書状況を把握できるようになっている。

毎週木曜日と金曜日の朝学習の時間は，朝読書の時間と位置付けている。朝学習の前に読む本を選び，朝学習の１０分間は読書することに集中するよう働き掛けている。また，月１回，木曜日の朝学習の時間，「読み聞かせ隊」の方々が各教室で本の読み聞かせをする「お話会」を実施している。

②　「読書対話」の取り組み

夏休み明けや冬休み明けなど，年に数回，「読書対話」に取り組ませている。児童は，自分がお薦めする本を１冊選び，カードにその本に関わる絵を描き，紹介する文も書く。朝学習の時間などに，自分が作成したカードを学級の友達に見せ，お薦めの本を紹介し合っている。

③　「読書まつり」と「ブックラリーカード」の取り組み



１１月には，「読書まつり」を行っている。図書委員会の児童が進行を行い，今年度は，図書委員会の児童や「読み聞かせ隊」の方々による読み聞かせ，「読書ウォークラリー」を行った。「読書ウォークラリー」では，全校の縦割り班でチームを作り，校舎内に貼ってある本に関する問題を解き，正答数を競い合った。問題は図書委員が考え，出題する本を事前に図書室前に掲示していた。

また，いろいろな種類の本を読むことを目的に，１１月の１か月間，「ブックラリーカード」の取り組みを行った。カードの中に日本十進分類法に即して分けられたマスがあり，自分が読んだ本の分類番号のマスに色を塗り，６マス以上塗るとしおりがもらえる取り組みを行った。

（２）　読書ボランティア「読み聞かせ隊」の活動

湯田小学校では，読書ボランティア「読み聞かせ隊」に，１０名程度の方が参加している。木曜日朝の「お話会」や１１月の「読書まつり」において，本の読み聞かせをすることが主な活動である。参加している方は，湯田小学校の保護者の方や以前保護者だった方，主任児童委員さん，劇団に入っている町議会議員さんなど，多岐にわたっている。１１月の読書まつりでは，学校長も参加して，方言で読んでみたり，お経のように読んでみたり，読み聞かせ中に木琴など楽器を演奏したり，それぞれの特技を生かした読み聞かせをしてくださった。

３　成果と課題

（１）　成果

・年間の目標冊数は，概ねどの児童も達成している。「読書おもいで帳」を見ながら，今まで読んだ冊数や，あと何冊読んだら今の通帳が終わるか数えている児童もおり，読書への意欲に繋がっていた。
・「読書対話」の取り組みでは，児童が活動に慣れ，本選びや絵を描くことを楽しみながらカードを作成し，お薦めの本を紹介し合っており，読書に対する関心を高めることに繋がった。
・「ブックラリーカード」の取り組みを通して，低学年の児童も分類番号の仕組みを理解することができ，読書の範囲を広げることに繋がった。
・「読み聞かせ隊」の方々による読み聞かせでは，ボランティアの方々がそれぞれ創意に富んだ読み聞かせをしてくださるので，児童は読み聞かせの時間を楽しみに待っていた。

（２）　課題

・年間の目標冊数を達成していない児童がまだ数名いるので，それらの児童も読書冊数が増えるような働き掛けを工夫しなければならない。

「本と出会い，本に親しむ子どもの育成を目指して」（読書指導）

胆江地区 SLA　奥州市立水沢小学校

１　学校図書館の概要

本校は，児童数５７８名の大規模校である。図書室は，南校舎２階の東側に位置している。蔵書数は，１４，３４３冊で，その中から，各学級に学級文庫を設置し，身近な図書利用の便を図っている。司書は，常勤で１名配置されている。また，地域の方に図書ボランティアとして読み聞かせや図書環境整備を行っていただくことにより，読書をする環境が整い，児童の読書意欲にもつながっている。

図書ボランティアにより読み聞かせ

２　具体的実践内容

（１）読書目標の設定

１年間の目標冊数（低学年７０冊，中学年５０冊，高学年４０冊）を設定している。「本だいす木」として，読書カードが終わる毎に葉にシールを貼る活動を通して，意欲的に読書目標を達成できるような取組を行っている。年度末に多読賞や読破賞を紹介している。

読書だいす木

（２）校内読書週間の設定

校内読書週間を各学期１回ずつ設定している。読書週間は，毎日２冊の貸出や図書委員会の企画，図書ボランティアによる読み聞かせを行っている。

（３）「ねえ読んでの日」の取組

毎月４日は，「奥州市家庭読書の日」となっているため，４日は音読カードに読書を位置付けている。また，２冊貸出日としており，家庭での読書習慣を身に付けられるよう工夫している。

ポップ紹介

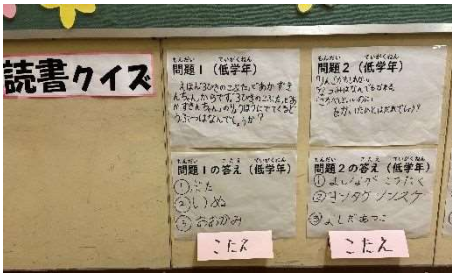
（４）図書委員会による取組

①おすすめの本のポップ紹介

図書委員がおすすめの本２冊（低学年向け・高学年向け）を紹介するポップづくりを行っている。本の題名と作者名，内容などを書き，図書室前に掲示したり，昼の放送で紹介したりしている。

②読書クイズ

読書週間に図書委員が作成した読書クイズに取り組んでいる。各学年の実態に応じて，クイズをつくっているため，楽しんで読書に取り組む姿が見られた。



③読書ビンゴ

読書ビンゴは，様々な種類の本を読むことを目的として活動している。ビンゴになった子どもたちには，「プラス１チケット」と呼ばれる２冊貸出券を渡し，意欲化も図っている。

④図書ランキング

今年から取り組みを始めた活動である。２～６年生に自分の好きな本・図書室に入れてほしい本についてアンケートを取り，ランキングにして全校に紹介した。ランキングを見て，本を借りる児童も増えているため，来年度は，アンケートをタブレットで行うなど取り組み方を検討したい。

（５）親子読書

冬休みの課題として，親子で読書に取り組む活動を行っている。本を読むことを通して，家族が一緒の時間を楽しむことが目的である。

３　成果と課題

「本との出会い」を多くの児童に届けるために様々な取組を試みている。これまでに積み重ねてきた実践は，本への興味関心へとつながり，読書意欲向上の効果をあげている。ただ，読む本に偏りがあることが本校の課題であるため，選書指導にも今後は力を入れていきたい。

「読書活動の推進と読書環境の整備の取組」

一関地区 SLA　一関市立赤荻小学校

1　学校図書館の概要

本校は、児童数２６２名、学級数１４（特別支援学級３）の中規模学校である。蔵書は約 7,700 冊で蔵書率は十分満たしている。図書室の運営は、図書委員会の児童が貸し出しや図書祭りなどを企画、読書普及員が週２回来校して書籍の注文や蔵書の管理など行い、月１～２回 PTA の図書ボランティアは書架の整理や掲示物の作成などの活動をしている。

2　具体的実践内容

（１）　読書活動の推進の取組

①　図書委員会による活動

「図書委員おすすめの本」の展示や低学年への読み聞かせなど、読書活動の動機づけとなっている。また、図書祭りの企画の中で、「図書クイズ」や「十進分類法読書ビンゴ」を行い、いろいろなジャンルの読書に取り組むようになってきた。特に、手に取って読まれなかった課題図書も児童が読むきっかけとなった。

②　親子読書・週末読書課題

全校で週末の課題として読書を出している。また、毎月第一日曜日の「親子読書・ノーメディアデー」、長期休業中は、親子で同じ本を読み共に一言感想を書く親子読書を行い、家庭にも読書習慣作りに協力いただいている。

（２）　読書環境の整備

①　いつでも本を手に取れる環境作り

教科書関連図書は、学習中すぐに手に取れるように学年の廊下のブックトラックに配架している。また、調べ学習のときに児童みんなで本を活用するために図書室の調べ学習コーナーに畳やテーブルを置いて活用している。

②　読書普及員と PTA 図書ボランティアが連携した環境作り

・「いわ 100」文庫の本の紹介
　児童が手に取って読みたくなるようなポップの展示
・季節に合わせた掲示物
　図書委員会も手伝って掲示物作り
・テーマに合わせた図書コーナー作り
・本に関するクイズやおみくじ
・読み聞かせ

3　成果と課題

・いろいろな本に親しむ時間が増え、全校の 88.5%が読書目標冊数を達成できた。
・読書普及員と PTA 図書ボランティアが連携し、図書委員会児童とも交流しながら図書館の環境整備を行うことで、図書室に足を運ぶ児童が増えてきた。
・日常的に読書する時間が足りないので、読書時間の設定を工夫していく必要がある。
・学年に応じた本選びや本を読み通す気持ちを育んでいくための指導の工夫が課題である。

「読書意欲を高め，読書の世界を広げよう」

陸前高田地区ＳＬＡ　陸前高田市立高田小学校

1　学校図書館の概要

【　R5　１学期　】

リニューアル

・死角の無い，安全な図書館に！
・明るく，居心地の良い場所に！
↓
蔵書スペースと読書スペースを交換しよう！

【　R5　２学期～　】

児童数　１６１人

蔵書冊数　9,526 冊

2　具体的実践内容

①読書目標の設定

低学年･･･100冊以上
中学年･･･75冊以上
高学年･･･50冊以上

《達成者にシール（学期ごと）》

②学級文庫の充実

・国語教科書関連の本
・市の移動図書館の本
（毎月，選書済図書を交換）

③朝読書・読み聞かせ

・毎朝，10分間の読書
・図書委員による学期末の読み聞かせ

④親子読書（夏季休業）の取り組み

・親子で同じ本
・読み聞かせ方式
・それぞれ好きな本

選択自由
↓
《カードへ記入》

⑤読書月間の取り組み

・６月⇒読書スタンプラリー
　低学年･･･頁無制限で５冊
　中学年･･･60頁以上の本を５冊
　高学年･･･100頁以上の本を５冊
・11月ビンゴカード（分類番号を利用）
　低学年･･･絵本，3，4，7，8，9番で指定
　中・高学年･･･０番以外で指定

《達成者に２冊券のプレゼント》

⑥特設イベント『本で旅しよう！』の開催

・低，中，高学年ごとに時期をずらして実施
・地図の利用
　低学年･･･岩手県編（県に関する本）
　中学年･･･日本編（人物・地理に関する本）
　高学年･･･世界編（人物・地理に関する本）
・取り組み方法
　借りた本に関するシールを地図に貼る
↓
《達成者に２冊券のプレゼント》

3　成果と課題

【成果】・明るくなった図書館は，常に子ども達で溢れかえっていた。
・取り組み方を工夫したことで，新たなジャンルの本に出会わせることができた。
・個人目標を明確にしたことで，励みとなった。
・市立図書館や図書教育指導員と連携することで，授業で活用する本を揃えたり，図書館整備に努めたりすることができた。
・開館日には，地域ボランティアに手伝っていただき，貸し出しをスムーズに行うことができた。

初めて写真集を借りたけど，きれだし面白いね！
この国に行ってみた～い！

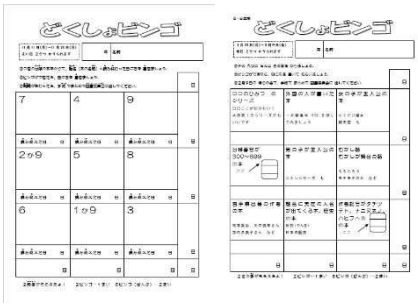
【課題】・教科書関連の本を，計画的に早く揃える。
・イベントの実施時期と期間の見直しが必要である。

「児童が親子で本に親しむための取り組み」

大船渡地区 SLA　大船渡市立越喜来小学校

1　学校図書館の概要

本校は、児童数69名、9学級（特別支援学級3学級を含む）の学校である。図書室は、校舎1階に設置されており、どの学級からも利用しやすい環境にある。本校には、市から図書ボランティアが派遣されており、蔵書管理や廃棄の補助、本の配置、掲示装飾等を行っている。



2　具体的実践内容

（1）　図書委員会の取り組み

6月と11月と2月に読書祭りを企画し、活動している。「どくしょビンゴ」の取り組みで、ビンゴを達成すると「2冊券」がもらえる。また、期間中に読んだ本の冊数によっても「2冊券」をもらうことができる。様々なジャンルの本を借りることを目的とし、分類番号でのビンゴと、作者や内容を条件としたビンゴの2種類があり、条件は委員会で検討して作成している。「2冊券」があると、1冊多く借りることができるので、1枚でも多くもらえるように、意欲的に参加している。「2冊券」は来年度の6月の読書祭りの時までの使用期限とし、過ぎた券は使えなくなる仕組みになっている。

（2）「特定非営利活動法人おはなしころりん」との連携

ア　移動こども図書事業

月1回の移動こども図書館を利用し、おはなしころりんが選書する図書を各学級に配架することを通して、発達段階に応じた様々な本に触れることができるようにしている。

イ　読み聞かせ

児童が本と親しむ時間を確保するために、学年毎に月1回、金曜日の朝読書の時間に、おはなしころりんが選書し、持参した図書を教室で読み聞かせしていただいている。

（3）　家庭との連携

ア　親子で読書に楽しむことを目標にした「うちどく」を毎月末の週末に実施している。全校で統一した用紙に、読んだ本の感想を児童と親が書く。「うち読だより」を発行し、マチコミメールで各家庭に配信している。

イ　親が学校図書館を利用する機会がなかなかないということで、学校図書館の蔵書を知り、どんな本を読ませたいのか考える「わが子へのおすすめの1さつ」の取り組みを行っている。年2回、長期休業前の個人面談で来校した際に、図書室で1冊借りてもらっている。

ウ　PTA 文化部の取り組みで、毎月、保護者の方におすすめの本を紹介していただいている。「おすすめの本通信」を発行し、マチコミメールで各家庭に配信し、図書室に本と一緒に掲示している。

3　成果と課題

（1）成果

ア　貸し出しの目標冊数は、毎学期、100%達成している。

イ　図書委員会の取り組みにより、児童が積極的に図書館を利用している。

ウ　高学年が、低学年に本の場所を教えてあげる姿がよく見られる。本の配置が分かりやすいので、どこに何の本があるのかが分かっている児童が多い。

（2）課題

ア　学年にあった選書ができるようにしたい。そのために、国語の教科書に掲載されている本のコーナーを設置しているが、新しい教科書に掲載されている本がまだ少ないので、計画的に購入していきたい。また、そのコーナーから本を借りた場合の特典を考え、利用促進につなげていきたい。

「本に親しむ活動　～より効果的な読書の機会を～　（読書指導領域）」

釜石地区 SLA　釜石市立双葉小学校

1　学校図書館の概要

本校は、釜石市の中央部に位置し 117 名の児童が在籍している。図書室は１階児童昇降口前の多目的ホールに面した場所にあり、ガラス張りで中の様子を見ることができる。蔵書冊数は、約 18,000 冊ほどである。

９分類に関しては、低・中・高学年向けに色分けして専用の本棚を設け、絵本は題名 50 音順に配架している。その他、学年毎のおすすめの本や教科書関連図書、新刊図書、戦争に関する本、自由研究に役立つ本などの各種コーナーを設置し、子どもたちが目的に沿って本を手に取り、読書したくなるような環境作りに努めている。

読書サポーター「颯・2000」の方々には、学級年２回程度の読み聞かせ、PTA の図書ボランティア「チームえふ」の方々には月１回、本の修繕や書架の整理・整頓等をしていただいている。

2　具体的実践内容

（1）達成賞

図書室から借りた本と学級文庫の本を対象に個人の目標冊数を設定し、達成できるよう取り組んでいる。学級担任も一緒に図書室に通い、子どもたちの読書量を把握したり、読書意欲を高めるような声がけを行ったりしている。

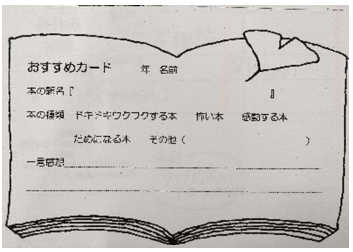
（2）図書委員による読み聞かせ

本校では週に１回１５分間の朝読書の時間があり、図書委員が低学年に紙芝居や絵本の読み聞かせを行っている。学校のリーダーである高学年が読み聞かせをすることで、低学年は児童会活動や縦割り班でお世話になっている先輩たちに親しみをもち、高学年は学校のリーダーとしての自覚をもつ良い機会となっている。

＜１年生への読み聞かせ＞

（3）図書祭り

今年度は図書に対する関心を高めるための委員会活動として、6 月と 11 月に図書祭りを開催した。「読み聞かせ」、「読書ビンゴ」、「図書ウォークラリー」、「図書委員のおすすめの本の紹介」そして「読書葉書」などを企画し、届けられた読書葉書を昼の放送で紹介する、ビンゴがそろったら手作りのしおりをプレゼントするなど、本に親しんでもらえるような工夫を行った。開催期間中は関心をもって参加する児童が多く、図書室が賑わっていた。



＜読書葉書＞

（4）親子読書の取組と展示

毎年夏休みと冬休みには、親子読書に取り組んでいる。読んだ本を記録したり、おすすめの１冊を選んで紹介文を書き、長期休業明けに多目的ホールに展示したりしている。親子読書カードは、図書ファイルに毎年綴じて 6 年分保管しているため、自分自身で振り返ることもできる。

＜チームえふ作製ポスト＞

3　成果と課題

（1）成果

委員会活動、読み聞かせ、図書ボランティアや達成賞の取組などを通して、本に興味をもつ児童が増えてきており、年２回の親子読書の取組は、伝統ある読書交流の場となっている。「チームえふ」の方々が、本の修理や配架・掲示の工夫などしてくださり、図書館内環境が常に整備されている。

（2）課題

これまでの活動を継続しながら、児童の読書への意欲や関心をさらに高めていくことができるような取組を実践していきたい。特に低学年は読み聞かせによって本に関心をもつことが多く、その機会を増やしていきたいと考えている。今後も「チームえふ」、「颯・2000」の方々との連携を深め、魅力ある図書室を目指していきたい。

「進んで読書をする子、本好きの子を育てるために」

宮古地区ＳＬＡ　宮古市立鍬ヶ崎小学校

1　学校図書館の概要

本校は、児童数１１１名、８学級（特別支援学級２）からなる。図書室は３階にあり、低学年向けに「絵本の部屋」を設けている。１、２階廊下には学級文庫の書棚を備えていて、時間があるときにすぐ本を手に取れるようになっている。

進んで読書をする子を育てるために図書室を中心とした環境整備や家庭の協力を得ながら親子読書などを行っている。

2　具体的実践内容

（1）図書委員会による取り組み

日常活動として図書の貸し出しの他に年間計画で「先生方のおすすめの本紹介」や「季節のおすすめの本」、「学級で人気の本アンケート」などを放送・掲示をしたりして、子どもたちの関心が少しでも本へ向くようにしている。

また、11 月の「読書まつり」、１月の「図書おみくじ」など図書支援員の支援を受けながら意欲的に活動を行っている。

（2）図書支援員、図書ボランティアの活動

ア　読み聞かせ

月に１回、朝活動の時間に地域の図書ボランティアによる読み聞かせを行っている。各学年に合った本を図書支援員が選んで実施し、終わった後は感想を交流し合う楽しい時間となっている。

イ　図書室の掲示と本の配架

子ども達が図書室に楽しく通えるように図書室前の掲示板や室内には季節にあった掲示・装飾を行っている。また、新刊図書が手に取りやすいようにコーナーを設置したり、人気のシリーズのタグを付けたり子ども達が利用しやすい環境作りをしている。教科関連図書を手に取りやすい場所に配架し、学習に使いやすいようにしている。

ウ　市立図書館との連携

年に１回、市立図書館業務支援を依頼し「お話会」を行っている。大型絵本やペープサート、ストーリトーリテーリングなど児童が本の楽しさにふれるよい機会になっている。

エ　タブレットを使った情報発信

紙媒体での「図書館だより」の発行の他にタブレットで新刊図書の紹介や開館・閉館のお知らせを全校児童に送っている。紙媒体だと読まない子もタブレットを開き、関心をもって画面を見ることができている。

（3）家庭との連携

ア　まなびフェスト

「まなびフェスト」で学団毎の目標冊数を提示し、毎週金曜日の本の持ち帰りを呼びかけたり、各学期に１回全校で「夕読み」に取り組んだりするなど、家庭でも読書に親しむ工夫をしている。

イ　親子読書カード

長期休業には全校課題として「読書の記録」と「読書感想カード」に取り組んでいる。休み明けには各教室に掲示し,こども達同士で読んだ本を話題にする様子も見られる。

3　成果と課題

（1）　成果

・新刊や人気のシリーズを揃え、タブレットで情報発信することで興味のある子どもたちが進んで図書室を利用するようになった。

・定期的に読み聞かせを行うことで、読後の感想交流が盛んになった。

（2）　課題

・夕読みの取り組み状況を見ると、「親子で」より「一人で」が多く、親子で本を読む時間はあまり作れていない。

・読み聞かせやお話会のように全体で本に向き合う時間を楽しめるが、学年に見合った本を選びじっくり読書のできる児童が少ない。

・これらはすぐに結果が出るものではないので「読書の種まき」をする気持ちで少しでも子ども達が読書好きになるように取り組んでいく。

「児童の読書活動への意欲を高める取組の工夫」

岩泉地区ＳＬＡ 岩泉町立小川小学校

１　学校図書館の概要

本校は全校児童４２名の小規模校である。図書室は校舎１階に位置しており、入り口には季節ごとに飾り付けをしている。本校の図書室はあまり広くないため、ランチルームや各教室にも本を配架しており、図書室以外の場所でも本と触れ合える環境づくりを行っている。

２　具体的活動内容

（１）　年間読書目標冊数

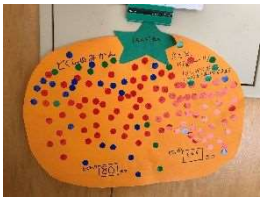
年間の読書目標冊数を、低学年１００冊、中学年６０冊、高学年３０冊と設定している。各学期の初めに個人の目標冊数を決めて、読書に取り組んでいる。借りた本や家庭読書で読んだ本を読書カードに記録し、学年末に目標達成者と多読賞の表彰を行っている。

（２）　図書委員会の活動

ア　おすすめの本コーナー

５月に図書委員や学校職員のおすすめの本を児童朝会で紹介し、図書室入り口に紹介コーナーを設置した。また、９月には全校児童が一人一冊おすすめの本を選び、紹介コーナーを設置した。

イ　図書室の利用促進活動「読書のみかん」



各学級で図書室利用の目標を設定し、本を借りるごとに図書委員からシールが配布され、各学級の「読書のみかん」に貯めてくという活動を行った。目標を達成した学級には達成賞を授与した。

ウ　多読賞の紹介

委員会の活動として、定期的に全校児童の読書ファイルを点検している。読書冊数を調べ、図書室内に全校児童分の読書状況が分かるような掲示を作ったり、昼の放送で各学年の多読賞を紹介したりしている。

（３）　図書ボランティアによる読み聞かせ

地域の図書ボランティアと連携し、各学期に１回程度、学級ごとの読み聞かせをしていただいている。

（４）　町立図書館との連携

ア　岩泉町立図書館主催の「読書マラソン」への参加

全校児童でエントリーし、読書への意欲を高めている。

イ　団体貸出図書「かもしか号」の利用

様々な本との出会いの場として利用している。

３　成果と課題

（１）成果

・図書委員会や町立図書館の取組への参加を通して、児童が楽しみながら読書への意欲を高められるようにすることができた。

（２）課題

・家庭での読書習慣があまり定着していない。家庭学習の中で読書の時間は位置づけられているものの、意識して取り組む家庭を増やしていくことが課題である。家庭を巻き込めるような取組を考えて行きたい。

「本に親しむ子供を目指して」

久慈地区 SLA　洋野町立大野小学校

1　学校図書館の概要

本校は明治８年創立、今年度１４９年目を迎える町内では最も歴史が長い学校であり、全校児童数は９５名の小規模校である。図書室は、北校舎２階の静かな環境にあり、１階のプレイルームにも低学年向けの本が置かれている。また、各教室にも学級文庫と町立大野図書館「ひばり号」から貸し出された本が設置され、本を選びやすい環境になっている。「まなびフェスト」に「進んで読書します」という項目を設け、学校・家庭・地域で協力し、子供たちが本に親しむことができるように取り組んでいる。

2　具体的実践内容

（1）　学校での取組

①　年間読書冊数の目標の設定

個人の達成状況を記入したブックツリーの果物の用紙を掲示し、児童の意欲につなげている。学年ごとに目標冊数（低学年 150 冊、中学年 100 冊、高学年 70 冊）をもとに個人目標（年間と学期ごと）を設定し、全員に記録賞、目標達成者には学年末に多読賞として表彰している。

②　朝読書の実施

朝の会の前の 15 分間を自分の読みたい本を読む朝読書の時間として設定している。じっくりと本に親しみ、読書の幅を広げる時間として効果的に活用できている。

③　図書委員会の活動

児童朝会や給食時間の放送などで「図書クイズ」の発表をした。また、図書祭りで図書ビンゴカードに取り組み、１列揃うとしおりになるおみくじを引くことができるようにした。様々な企画を行ったことで普段よりも色々な本を読む児童が増えた。

（2）　家庭での取組

長期休業における親子読書の取組

長期休業中にも図書館を開館し、本に触れる機会を作っている。また、PTA の育成部の活動で「親子読書」に冬休みに取り組んでいる。親子で共通の本を読み「親子読書カード」に記入することにより家族で読書に親しむ機会となっている。

（3）　地域での取組

図書ボランティアによる読み聞かせ

２週間に１回、水曜日に図書ボランティア「いちょうの木」の方々に年に２０回程度読み聞かせをしていただいている。毎回、各学年の子供たちやその時期に合わせて、興味をひく本を用意してくださるため、本に対する興味・関心が高まっている。

3　成果と課題

（1）　成果

朝読書や読み聞かせ、図書祭りなどを通して、本に親しみ、楽しく読書に取り組む児童が増えた。図書館以外の場所でも本に触れるような環境を整えたことにより、低学年が手軽に本に触れることができている。

（2）　課題

読書をすることは好きだが、運動をすることも好きな児童が多い。また、図書室が教室から離れたところにあることから、高学年になるにつれて図書室への足が遠のいている傾向にある。そのため、読書に触れる機会の設定と読書時間の確保をしていく必要がある。委員会活動だけでなく、学校・家庭・地域で協力し、どの学年も本に親しめるよう引き続き取り組んでいきたい。

「児童に読書への興味をもたせる図書館祭りの取組」

二戸地区ＳＬＡ　軽米町立軽米小学校

1　学校図書館の概要

本校は児童数１６６名、８学級（特別支援学級２含む）の学校である。学校図書館は校舎１階のホールの隣にあり、児童も職員も利用しやすい場所に位置している。図書はバーコードで管理されており、蔵書数は9,899冊（令和６年１２月現在）である。朝・業間休み・昼休みに開館し、運営は図書館担当と図書委員会が中心となり行っている。また、図書支援員の定期巡回があり、個人用貸出カードのバーコードの作成や本の受け入れ手続き等の作業をやっていただくことで、蔵書管理の円滑化が図られている。加えて、破損した本の修復や本の手入れ、季節に合わせた図書室壁面の装飾など、児童が図書館に来たくなるような環境整備にもご協力をいただいている。

2　具体的実践内容

１１月を読書月間として、「図書館祭り」の取組を行った。図書館祭りの取組は大きく分けて２つある。１つ目は、全校でビンゴカードの取組を行い、いろいろな種類の本に親しむことがねらいである。２つ目は、「チャレンジ大会」と称して学年ごとに辞典や新聞を使ったミニゲームを行い、言葉に親しむことがねらいである。

①全校ビンゴカードの取組

10種類の分類番号の本を借りると、①～⑨のシールをもらうことができ、全て集めると「ポケモン・英単語のしおり」をもらうことができる。このしおりは読売KODOMO新聞の一部を活用しており、児童の興味を刺激する内容になっている。

図書委員が達成状況を放送で知らせたり、図書室利用の呼びかけを行ったりし、全校が図書館祭りに積極的に取り組めるようはたらきかけを行った。また、貸出業務を行う係、ビンゴカードにシールを貼る係、各分類番号の本がどこにあるのか困っている人に教える係等、図書委員の意見を取り入れながら役割分担をして実施した。

②チャレンジ大会（各学年の取組）

低学年は新聞からひらがなや漢字の単語を探す活動、中学年は漢字辞典や国語辞典の早引き大会、高学年はアルファベット早並べやワードピラミッドのミニゲームを行った。図書委員が各学年の学習内容をもとにミニゲームの内容や問題を考え、言葉に親しむことができる機会となっている。

3　成果と課題

○図書館祭りの取組では、どの学年も意欲的に図書室を利用し、本を借りることができた。普段借りない種類の本を探す中で、国語や社会の学習を想起する児童や、自分のおすすめを友達に紹介しながら読書に親しんでいる児童の様子が見られた。

●図書館祭りによる図書利用の促進を年間を通しての利用につなげていきたい。学級文庫の整備、朝読書の継続やすき間読書の設定等、読書時間を確保し、調べたいときや見たいときにすぐに本を手に取れる環境を整えていく必要がある。

「本が動く居心地の良い図書館を目指して」

盛岡地区ＳＬＡ　盛岡市立大宮中学校

１　学校図書館の概要

本校は、学級数１７（１年・２年・３年各５、特別支援２）生徒数527名で、図書館の蔵書は12,391冊である。図書委員が日常業務で図書当番や学級文庫の管理を行っている。図書館は昼休み時間に開館している。利用者は一日平均10～20人くらいである。

蔵書のバランスはよく、辞典類を国語科、英語科に貸し出して教科の授業で利用している。また、総合学習で使用する先人学習のための本や、職業関係の本を学級で調べられるように多数用意してある。昨今パソコンを使って調べ学習をすることが主流だが、全体の概要を掴むには図書のほうが良い場合がある。両方の特性を生かしながら利用させていきたい。

２　具体的実践内容

学校図書館では読書週間の確立を図り、生徒が積極的に図書館を利用するためにさまざまな取り組みを行っている。

（１）図書委員会の活動

①毎月１回、読書紹介を中心に図書館便りを発行して、紹介された本を図書館前に掲示している。

②学級文庫を各学級に配置し、年５回ほど入れ替えて、次の学級にまわして、朝読書などに活用している。

③読書希望調査を生徒全員に実施、購入に反映させている。

（２）図書ボランティアによる環境整備・配架の工夫

〈牛乳パックを使った配架例〉

〈季節の手作りの飾りと本の掲示〉

〈生徒が作ったＰＯＰの活用〉

〈探しやすいコーナーの設置と整頓〉

３　成果と課題

【成果】　場所が四階と利用しにくい環境ではあるが、図書ボランティアの活動により、整理整頓された、本が探しやすい図書館となっている。

【課題】　本を借りる人が固定化し、借りる本がノベライズものに偏っている傾向にあるので、他の良書も紹介し多くの人に読書の良さを知ってもらうことが課題である。

「学校図書支援指導員と連携した図書室の環境整備と、読書推進活動の取組について」

岩手地区 SLA　岩手町立一方井中学校

１　学校図書室の概要

全校生徒３３名の本校は、いわて沼宮内駅より西方５ｋｍの地点に位置している。読書の傾向としては、「小学生の頃から図書室が好きだった」とか、「移動図書館（おおぞら号）の巡回貸し出しを楽しみにしていた」という生徒が多く、本好きの生徒が多い。しかし、中学入学とともに短くなった昼休みや様々な活動等によって徐々に図書室離れの傾向にある。また、図書室の本が選びにくい（探しにくい）、貸出の方法が煩雑だという声が前からあった。この点を改善するために、数年前から月２回程度来ていただいている町の学校図書支援指導員と連携し、図書室の環境整備に取り組み、貸出方法にPCシステムを導入して、図書室を利用する生徒を増やし多くの本に触れさせるよう取組を行ってきた。

２　具体的実践内容

（１）生徒が読みたい本を選び図書室に入れる取組（全校生徒による「選書」）

新年度に外部業者を通して学校図書を購入しているのだが、毎年「１００％全校生徒による選書」を実施している。町内の業者の協力により、中学生にお勧めの本や新刊図書を実際にもってきてもらい、約３００冊の中から「図書室にあったらいいな」「これはぜひ読んでみたい」と思う本を選び、購入する。「選書」をするための時間として各学年１時間ずつ、読書指導の領域で国語の時間を割り当てた。各学年の生徒らは、「１時間では足りない」と言う声が上がるほど本選びに熱心に取り組んでいた。

（２）図書室環境整備と貸出方法の改善（利用したいと思える図書館づくり）

本校の図書室は古く、一部の学年の生徒にとって利用しにくい位置にあることあり、利用する生徒に偏りが見られた。また、古い本も多くて書架の並び方もわかりにくく、生徒が選びやすいよう分類・整理する必要があった。そこで、ここ数年かけて以下の取組を行った。

①　図書室環境整備（学校図書支援指導員との連携）

・図書室レイアウトの変更、書架の設置
・古い本の処分、修繕
・見やすい表示の作成（ポップづくり、コーナーの表示等）
・「おすすめの本」の紹介、特集コーナーの設置

②　PC システムの導入と貸出方法の電子化

・本のデータと利用者（生徒、職員、生徒会組織）の登録
・貸出・返却・読みたい本の検索方法のオリエンテーション
　（４月、導入した年は全生徒、次年度からは１年生を対象）
・生徒が自分で PC を操作し、貸出、返却、本の検索をする。

【見やすい表示・特集コーナー】

３　成果と課題

＜成果＞

・生徒自身による選書は生徒の本に対する興味・関心を引き出し、読書推進のきっかけとなった。また、自分達が選んだ本が図書室に入荷するという楽しみが、利用増加のきっかけともなった。
・図書室の環境整備、PC を導入した貸出・返却によって、図書室に来る生徒、貸出数も増えた。取組はたいへん効果的だった。

＜課題＞

・全体として図書室を利用する生徒は増えたが、まだ読書にあまり興味がなく中学生になって１冊も本を借りていない生徒もいる。教科の授業や朝読書など様々な活動との関連を図り、読書の楽しさを実感させ、進んで本を読んでみようとする生徒を増やしていきたい。

「POP で読書推進」

八幡平地区ＳＬＡ　八幡平市立安代中学校

１　学校図書館の概要

本校は、全校生徒 47 名の小規模校で、図書室は３階建て校舎の３階奥という位置にあり、生徒昇降口から最も遠い。同じ３階の１・２学年教室からは気軽に利用できるが、３年生教室からは、廊下、階段を経て、わざわざたどり着く場所にある。図書室の面積は普通教室と同じくらいの広さで書架の数が限られ、蔵書数も少ない。しかし、小さいことが幸いし、昨年度（令和５年）、市内小中学校の中で先んじて、データ化していただき、バーコードリーダーで貸し出しができるようになった。

２　具体的実践内容

本校の「まなびフェスト」には毎日 20 分以上の読書推進が掲げられ、朝読書も根付いている。国語の教科担任の立場から、授業の中で「月１冊、年間 12 冊は本を読もう」と奨励するとともに、学習図書委員会活動として「POP チャレンジ」と名付けた取組も昨年から行わせている。これは、年間 12 冊の読書を達成させるために、生徒一人ひとりに学期ごとの読書目標冊数を決めさせ、A４用紙の右上に書かせて廊下に掲示し、読んだ本の POP を貼らせるものである。目標冊数４冊の生徒が POP を４枚貼ったら目標を達成した生徒として、図書館だよりで紹介する。また、夏・冬の長期休業中は必ず１枚以上 POP を作ることを国語科と学習図書委員会からの課題とした。提出された POP は掲示後、学習図書委員会が審査し、最優秀・優秀・優良賞を選んでいる。

他にも、今年度は、生徒に事前に予告し、自分の読書状況を考え POP 作成する時間を与えたうえで、国語の定期テストに、POP と読書に関する作文を出題した。

３　成果と課題　（◎成果　●課題）

◎POP は各学年の廊下に常に掲示してあるため、生徒は友達や先輩の POP を見て、次に読む本を選ぶ際の参考にしている。

◎1 学期は時間を設けて促しながら読書させていたのが実態だったが、2 学期は生徒が自分で必要性に気づいて読書をするようになった。さらに積極的に本を手に取るよう、図書館だよりも活用し、本の魅力を伝え、読書への意識を高めていきたい。

◎国語の定期テストの回答には「困難を乗り越える主人公の姿からあきらめないことを学んだ。」「ポジティブな方が人生を楽に生きられると学んだ。」など、読書で得た記述が感じた。

●入学時点の生徒は、決して読書が嫌いではないが、中学校生活が始まると、部活動に参加している生徒ほど、じっくり本を読む時間を確保できなくなることが課題である。

●現在の校舎における図書室の位置は、生徒にとって利用しやすいとは言えない。生徒が気軽に立ち寄ることができる場所への図書の設置も考えたい。

「読書活動の推進をめざして」

雫石地区ＳＬＡ　　雫石町立雫石中学校

１　学校図書館の概要

本校は、生徒数 364 名で、蔵書冊数は約 13,700 冊、年間の購入冊数は R5 年度で 341 冊である。図書館は壁や扉のないオープンスペースのため、いつでも本を手に取ることができる。常勤の図書司書が図書館資料の選択、発注及び受け入れ、図書の管理のほか委員会生徒による貸出作業のサポートを行っている。図書の返却は、カウンター返却のほか、いつでもブックポストに返却することが可能なため、図書の延滞は少ない。図書館は、休憩時間の読書や朝や放課後の自習に自由に利用されている。

２　具体的実践内容

（１）読み聞かせの実施

年に３回、朝読書の時間に読み聞かせを行っている。校長、副校長を含めた全職員が年に１度は教室での読み聞かせを行うほか、毎回、読み聞かせボランティア「おはなしの雫」から４名派遣していただいている。ボランティアの方々は、なじみのある童話にとどまらず環境問題など現代社会の抱える課題をテーマにしたものまで、生徒の実態にあわせて本を選んでくださっている。職員が読み聞かせる図書は、図書館内の図書や絵本などに限定せず自由に選んでおり、プロジェクターを使用して絵や写真等を投影することも可能である。

生徒は、学期に一度の読み聞かせを楽しみにしている。中学生になると本を読んでもらうことがほとんどなくなるため、「人の声で届けられる本の内容は新鮮に聞こえ、とても楽しい」、「わずか 10 分でも絵本を通して物事に対する視点が変わる」と感じている生徒も多い。

（２）季節ごとのディスプレイやテーマを決めたピックアップ図書

新刊図書だけでなく、各種検定の前には、過去問やテキストを目立つ場所に移動したり、夏休み前には各種コンクールの課題図書をコンクールごとに展示したりするなど、月ごとにテーマを変えてディスプレイと図書のピックアップを行っている。震災関連図書、受験生応援図書、ハロウィンやクリスマスなど行事に関わる物語図書などをポップとともに展示している。

３　成果と課題

（１）成果

昼休みの図書館は、ほぼ満席になるくらい生徒たちが集まってきて本を手にとっている。朝読書の時間は、どの生徒たちも静かに読書しているほか休み時間やわずかな時間でも本を開いている生徒が増えてきている。図書館に足を運び、本に興味をもってもらう手立ての一つとして、読み聞かせを通してわずかな時間で楽しめる本を紹介したことも効果的だった。

（２）課題

朝読書は、読書に親しむことを目的としていたが、今後は生徒の実態に合わせた本の選定が必要である。ライトノベルに偏りがちな自由読書であるが、さまざまなジャンルの文章に触れさせる工夫をしていきたい。

「読書に親しみ、誰もが利用しやすい図書室づくり」

紫波地区SLA　矢巾町立矢巾北中学校

１　学校図書館の概要

基本データ　生徒数 344人　教職員数 36人　蔵書数 13,097冊　年間貸出冊数 951冊(R5)

本校の図書室は、普通教室2.5個分の絨毯敷きで、３つのスペース（書架・机・直座り）になっている。開館時間は昼休みで、図書委員会活動として貸し出し当番を自主的に行っている。また、図書委員会は図書事務補助員（３週間に１回）の協力を得ながら、様々な取り組みを行っている。

２　具体的実践内容

（１）「ビブリオバトル」の実施（全校活動）

生徒会リーダー研修会をきっかけに、図書委員会と学習委員会とのコラボ企画「全校ビブリオバトル」がスタート。図書委員会担当が生徒案をもとに立案し、運営委員会、職員会議を経て、生徒主導での「ビブリオバトル」を実施した。各学級３回の選書・練習時間を調整し、国語科・各担任・各学年の協力を得ながら実施した。

① 図書・学習委員長・図書担当職員との連絡会

全校での企画とするために、いつどのような形で実施できるかを１学期の昼休みに３回実施した。委員長同士は、２学期に入り時間を見つけて自主的に相談していたそうである。

② 図書委員の事前練習会

１学期末に図書委員会３年生を中心に練習会を行った。夏休み明けには、図書委員だけでのビブリオバトルの体験会を行い、全校への周知の準備をした。

③ 図書委員と学習委員「ビブリオバトル紹介動画」と「７ビブリオバトル進行動画」の作成

３年生の各委員と合同で、「ビブリオバトル」とは何かという紹介動画の作成と、学級でどのように進行するのかの作成を行い、周知を図った。

④ 当日の運営と事後のまとめ

当日の運営をスムーズに行うため、図書・学習委員と合同でリハーサルを行った。実施後の「チャンプ本」の報告や放送での紹介までスムーズに行うことができた。

（２）「読書アンケートの実施」と「選書リスト」づくり

図書委員長が全校に読みたい本のアンケートをとり、それをもとに図書事務補助員の協力を得て図書購入のための「選書リスト」を作成した。２回アンケートを実施し、ビブリオバトルのチャンプ本も「選書リスト」に入れることができた。

３　成果と課題

（１）成果

図書室運営に図書委員会以外のたくさんの生徒たちが関わったことで、読書に興味をもち、本を借りて読もうとする生徒が増えた。（前年度より300冊増加し、1,235冊）

（２）課題

「ビブリオバトル」は、今年度初の取り組みとなったため、来年度以降の見通しをもって継続的な取り組みとしていくこと。

「気軽に本に触れることのできる図書室を目指して」

花巻地区 SLA　花巻市立宮野目中学校

1　学校図書館の概要

本校は、生徒数１６５名、８学級の中規模校である。図書室は校舎の東端２階、教室の並びにある。今年度からバーコードによる蔵書管理システムで管理している。また、各学級に学級文庫として蔵書数２０冊を貸し出し、各教室でも自由に図書室の本に手を伸ばすことができるようになっている。

2　具体的実践内容

（1）　読書指導

全校で週３回、朝短学活の前１０分間を朝読書時間として設定し、担任も一緒に読書している。自分で購入した本、図書室から借りた本や学級文庫から借りた本など、自分の興味が持てる本を読んでいる。

また、年に２回、全校読書として集団テキストを１週間かけて読み、簡単な感想文を書き１階廊下に掲示し全校で鑑賞するかたちにしている。

（2）　図書委員の活動

図書委員会の活動の一つとして新刊図書のポップを作り紹介している。絵の得意な図書委員が「おすすめの一冊」の本を書き、紹介している。また、図書館報にも新刊図書の紹介を載せ発行している。

（3）　コーナーの設置

今年度から新聞コーナーを設け、図書委員が毎日入れ替えをしている。最近は新聞をとっていない家庭も増え、新聞離れが顕著になってきている。そこで、気軽に読むことができるようしている。

また、毎月個人の方から寄贈していただいている「ナショナル　ジオグラフィック」のコーナーも設けている。

3　成果と課題

（1）　成果

・バーコード管理システム導入と図書委員会の活動により環境が以前より整い、生徒の読書への関心が少し高まった。

（2）　課題

・予算は十分にあるが図書室が狭く書架の数も不足しているため、廃棄本の選定作業を急いで行う必要がある。

・もっと工夫し、生徒が気軽に入りやすい図書室にしていきたい。

「『読書』のある学校生活づくりを目指した実践の試み」

遠野地区ＳＬＡ　遠野市立遠野西中学校

１　学校図書館の概要

本校は、生徒数88名、５クラス（うち特別支援学級２）の学校である。図書室は校舎1階にあり、入り口付近の廊下には大きな書架がある。そこには、授業で紹介した本や話題の本を配架し、本に触れる広さは、普通教室とほぼ同じであり、限られた閲覧スペースではあるが、学習・図書委員や本好きの生徒が穏やかに過ごす場所となっている。

また、本校は２階にも若干の書架があり、市立図書館から貸借している本や寄贈された雑誌やリーフレットを置いている。読書スペースもあり、気軽に本を開いてみることのできる場所となっている。

２　具体的実践内容

生徒の生活の流れを考えると、学習、合唱、部活動など、取り組むべき活動は多くあり、十分な読書時間の確保は難しい状況にある。

そこで、引き続き学校での読書時間は可能な範囲で確保しながら、家庭での読書につなげる手立てはないか、生徒の主体性を引き出し、自ら読書時間を生み出す工夫をするような流れを構築できないか模索している。

（１）授業の中で

図書館担当が国語科であることを活かし、授業において学習中の教材に関わる図書を積極的に紹介した。また、学校行事やニュースなど、その時々の話題にも合わせて、おすすめの図書を提示してきた。図書購入計画の立案時には、授業で紹介することを念頭に選書を行っている。

（２）生徒の手による読書環境づくり

本校では、学習・文化専門委員会が読書活動の推進役となっている。

これまでは、図書当番や学級文庫の入れ替え、全校生徒が取り組む本紹介などの活動を行ってきた。これに加え、今年度は生徒の発案で、「目指せ、読書マスター」という名称の取り組みを始めた。図書室の入り口に読書冊数に応じてシールを張り付ける名簿を用意し、委員の生徒ではなく、生徒自らが図書室に出向いてシールを張りにくることとした。これにより、読書量を可視化して意欲を高めるとともに、図書室への来室数も増やそうという試みである。

また、本紹介もロイロノートを活用して行い、生徒全員のおすすめ本も相互に見られる形ではどうかと検討しているところである。

３　成果と課題

〈成果〉

授業での図書の紹介や、生徒たち自身の本紹介、新たな委員会活動内容の開始により、新たに図書室を利用する生徒が見られるようになった。委員と担当教師の間で、図書室の利用改善に関わる相談機会も増え、今後の委員会活動の充実も期待される。

〈課題〉

読書への意欲の高まりは、まだ一部の生徒に限られており、忙しさの中で読書は後回しになっている状況もある。今ある朝読書や休み時間の枠はそのままに、本に触れる機会をいかに増やしていくか、増やしたいと思わせるかに注力していきたいと考える。

「読書・図書館に親しむ生徒を増やす活動」

北上・和賀地区 SLA　北上市立北上北中学校

1　学校図書館の概要

本校は、生徒数１２９名、８学級（特別支援学級２を含む）の学校である。本校の図書館は、１階廊下の北端、職員室や校長室より更に奥にあり、やや足を運びづらい場所である。現在約 8,400 冊の蔵書がある。図書館は、壁面に全て本棚が設置されており、奥に非常口のある、直線の通路状に配置された区画と、１メートル程度の高さの複数の本棚や三つのテーブル、背もたれ付きベンチがある少し開けた区画に分かれている。開館は昼休みで、図書の貸し出しは図書委員会が行っている。昨年度は図書館に来る生徒が少なかったが、今年度は図書委員会の呼びかけもあり、利用者が増えた。数年前より図書館の一角に置いてあった廃棄予定の図書を、市の図書整理指導員に依頼して廃棄登録することができた。また、２学期末の面談期間中に PTA が蔵書点検を手伝った。通常は、図書担当が限られた時間の中で図書館を管理運営している。

2　具体的実践内容

◇図書委員会の活動

毎日の活動は、昼休みの本の貸し出しや図書の整理を行っている。月に一度の委員会活動日は、学級文庫の選定、運搬や返却等をしている。活動内容に図書委員のおすすめ本の紹介がある。昼の放送を担当している報道委員会と連携して、図書委員によるおすすめ本の紹介放送をした。

◇朝読書

毎朝１０分間程度、全校読書を行っている。学級文庫の本や個人で図書館から借りた本、家から持ってきた本を読む。

◇学級文庫

図書委員が、自分のクラスに置く図書を図書館から 15 冊選んで、毎月教室に運び、図書を入れ替える。様々な本に触れる機会にするため、小説以外の本からも選び、バランスよく学級に配置している。

◇新刊図書やおすすめ図書の設置

図書館で本を手に取ってもらうためでもあるが、入りづらい場所にあるため、図書館に興味を持たせる意図で、廊下を北に向かって歩くと、図書館の入り口から様々な本のある空間が見える状態にしている。

3　成果と課題

◇成果

朝読書や学級文庫により、短時間ながら毎日読書をする機会を確保できている。学校図書館では、昨年度より本を手に取る生徒が増えた。（令和５年度 239 冊→令和６年度［令和７年１月 31 日現在］697 冊）

◇課題

未だに学校図書館の本を借りたことのない生徒が全校の約 52%と多く、借りに来る生徒も固定化されている。その点の改善を目指した取り組みを模索したい。

「生徒に読書と本をつなぐ図書館活動」

胆江地区ＳＬＡ　奥州市立水沢南中学校

１　学校図書館の概要

本校は全校生徒５８５名、学級数２１クラス（特別支援学級３クラス含む）の大規模校である。図書館は中央校舎２階、職員室向かいに位置し、蔵書数は１３７３９冊であり、全蔵書がデータベース化され、貸し出しや返却作業などはバーコードで管理している。常勤の学校司書と連携しながら、図書委員会が読書活動の充実を図っている。

２　具体的実践内容

（１）年間活動目標冊数の設定、および表彰

年間貸出冊数１人２０冊（9/30までの前期１０冊、年度末までの後期１０冊）を目標とし、各学年貸し出し上位３名と全達成者は図書館だよりで発表し、年度末に表彰を行っている。昨年度、貸し出し冊数１位は３６１冊、９８人が達成した。今年度は二学期末現在で、貸し出し冊数１位は３０３冊、読破目標達成者は７２人が達成している。

（２）学級文庫の設置

全学級に学校司書が選出した２０冊を設置している。図書館に来館しない生徒たちも朝読書などで大いに利用し、本に親しんでいる。

（３）図書委員による図書紹介

図書委員に本の紹介POPカードの作成を前期は文章をメインに、後期はイラストをメインに岩手の読書週間にあわせ、行っている。図書館の蔵書による紹介を中心にしているため、特集として図書委員おすすめ本を紹介するなど行っている。

（４）読書ボランティアによるブックトーク

市の読書ボランティアによるブックトークを年に一度、図書委員を対象に実施している。本の魅力や伝え方に感激し、全校生徒への本の橋渡しになる委員の役割を再実感している様子が見受けられる。

（５）岩手読書週間による取り組み

２０２３年度から、図書館に整備しているその年度の朝日中高生新聞、読売中高生新聞、校内に掲示していた朝日写真ニュースを、来館した希望生徒に配布した。スポーツや芸能、自分の進路に係わる記事などを友達同士で探したり話したりする様子が見られ、非常に好評である。

３　成果と課題

〈成果〉

図書館前に返却ボックスを設置し、閉館中でも図書を返却できるようにした。人を介さない返却ができることがハードルを下げているのか、大変好評である。

〈課題〉

朝日写真ニュースが２０２４年９月から届かなくなり、新聞販売店ともうまく連携が取れず、今後新聞配布の取り組みが実施できるか不安が残る。

「生徒の読書に親しむ態度や望ましい読書習慣を育成する取り組み」

一関地区ＳＬＡ　一関市立舞川中学校

1　学校図書館の概要

本校は全校生徒 39 名、5 学級（内特支 2 学級）の学校である。図書室は、普通教室 1 室分のスペースがあり、蔵書数は 5628 冊、館の運営は図書広報委員の生徒と週 2 回勤務の読書普及員が中心となって行っている。（月）～（金）の昼休みに開館し、貸出業務は委員会生徒が中心となって行っている。

2　具体的実践内容

（1）朝読書

一関市は、小中学生の言葉の力を育てる教育に力を入れており、読書、音読、先人学習を重点に取り組んでいる。本校では特に朝読書を大切にしている。非日常を疑似体験できる読書は、人生経験に乏しい子どもたちの感受性を育んでいる。また 1 日の始まりを静寂から始めることで落ち着いた学校生活を送ることへの意識付けになっている。

（2）委員会

全校生徒会の年間活動計画に基づいた貸出業務や全校朝会での図書館利用の呼びかけなどは日常活動として定着している。他には、強化期間を設け、規定冊数以上借りた人に委員手作りのしおりやブックバンドをプレゼントしたり、また長期休みを挟んでおすすめの本からクイズを作成し、全問正解者に委員手作りのブックカバーをプレゼントしたりしている。こうした強化取り組みは生徒に好評である。

月 1 回発行している委員会報「BOOK　ON！」では、教職員にインタビューし、影響を受けた本やおすすめの本を紹介してもらう記事を載せて生徒の読書意欲の向上につながっている。

（3）読書普及員

季節や世の中のイベントに合わせて、特集コーナーを設けて、中学生の興味関心にあった多彩な作家の作品を POP 等で紹介している。生徒は、読んだことのない作品でも POP から興味関心を広げ、手に取っている。限られた作者の作品に固執しがちな子どもたちの読書に幅広い選択肢を与えている。

3　成果と課題

（1）　成果

このキャンペーン期間では明らかに図書の貸し出し冊数が増えており、生徒の読書意欲を高めている。プレゼントも委員や特支学級生徒の手作りであることから数年来継続した活動として認知されている。

（2）　課題

こうした活動をもってしても、子どもたちの活字離れは確実に進行しているのが現状である。読書普及員と相談し、生徒の集会時に読書普及員が本の紹介をするなど新しい活動を工夫しながら生徒の望ましい読書習慣の育成に取り組んでいきたい。

「学校図書館利用活性化に向けて　～全校ビブリオバトルを通して～」

住田地区ＳＬＡ　住田町立住田中学校

１　学校図書館の概要

本校は、全校生徒８０名の小規模校である。毎日昼休みに開館し、国語の授業や住田町で行っている地域創造学という探究学習を行う際にも図書館を活用している。特別支援教室の隣に位置しており、特別支援学級の授業でも活用することが多い。

２　具体的実践内容

本校では、読書指導として、国語科でのポップ作りや本に関するスピーチ等を行う他に、読み聞かせボランティアの方々による朝の読み聞かせ、図書ボランティアの方によるブックトークを取り入れている。また、全校ビブリオバトルを行い、読書を楽しむだけでなく、自分にはない視点からの選書を促している。全校ビブリオバトルの流れは、以下の通りである。

（１）ビブリオバトル

①　グループ（学年別）＋先生１人　でのビブリオバトル
　　間に１分の質問タイム　その１０秒後に次の人が話す

②　グループ（学年別）のチャンプ本投票

③　グループ（学年別）のチャンプ本によるビブリオバトル

④全体のチャンプ本投票（ロイロノートを使用）

（２）図書ボランティアの方から（講評・ブックトーク）

（３）チャンプ本発表

生徒たちは、ビブリオバトルで使用する本を、学校図書館からも借りている。その割合は全体のおよそ半数であった。普段、学校図書館になかなか足を運ばない生徒も、ビブリオバトルのために本を選びに行く姿が見られた。

３　成果と課題

（１）成果

日頃、学校図書館を活用する生徒が固定化している傾向にあるが、ビブリオバトルを行うことにより、学校図書館に足を運ぶ生徒が増えたことが成果として挙げられる。学校図書館を活用するきっかけがつかめれば、他の教育活動を行う中でも、「図書館に行けば何か資料が得られるのではないか」と考える生徒が生まれることを期待している。日常の様子を見ていても、本に親しむ生徒は少なくないと感じており、学校図書館利用の活性化を今後も図っていきたい。

（２）課題

ビブリオバトルのように、生徒が楽しんで読書活動に取り組めることはよいが、継続的・日常的な図書館利用の活性化が課題である。生徒たちが興味をもつような図書館の環境づくりが今後の課題である。係の生徒たちの意欲を伸ばしながら、図書館環境を整える工夫をしていきたい。

「読書推進を目指す活動の工夫」（読書指導領域）

陸前高田地区 SLA　　陸前高田市立高田東中学校

1　学校図書館の概要

本校は、震災後、米崎・小友・広田中学校の３校が統合し創立された学校である。一昨年、新校舎が完成し、生徒達は元気に学習や部活動に励んでいる。図書館は校舎２階のオープンスペースにあり、生徒は自由に本に触れることができる環境となっている。図書館運営は主に図書委員会が行っており、意欲的な活動を行っている。また、図書館教育支援員が配置されており、図書館業務（選書のアドバイスや受け入れ、配架など）を行ってくれている。

2　具体的実践内容

（１）図書館の整備

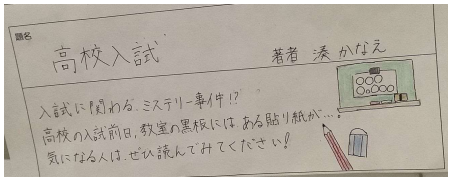
毎日の図書当番の際、書架の整理を行い、利用者が使いやすい図書館・魅力ある図書館作りに務めた。また、毎月の図書便りでは月の来館者数と貸し出し数を調べ、来館の呼びかけを行っている。

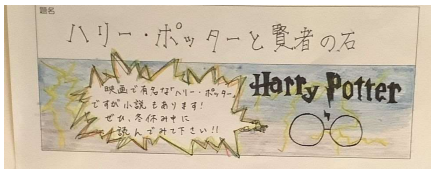
（２）朝読書の充実

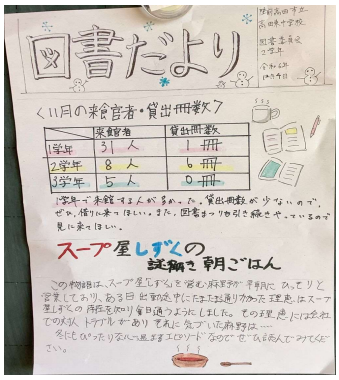
本校では、朝読書の時間を８：20～８：30 の 10 分間と位置づけている。各学級の図書委員が運営しており、2 分前には着席や本の準備を促し、落ち着いた環境の中で読書に親しんでいる。また、月に１度、図書委員会がセレクトした学級文庫を各学年の多目的スペースに設置し、朝読書の時間に手に取ってもらえるようにした。

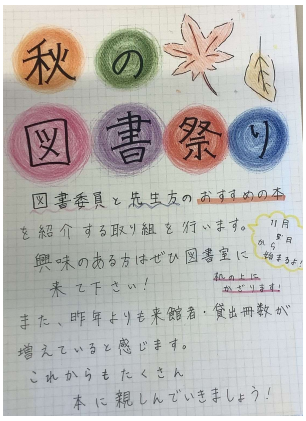
（３）積極的な図書紹介

今年度は、図書紹介に力を入れて活動した。図書委員や、先生方のおすすめの本紹介コーナーを設け、展示をしたり、POP や掲示物を工夫したりして本の紹介をした。また、毎月の図書便りを通じて図書委員のおすすめの本を紹介した。









3　成果と課題

〈成果〉

図書紹介の掲示物や展示コーナーを設けることで、本を身近なものとして親しんでもらうのに効果的であった。朝読書は定着が図られており、全学級が静かに読書に取り組む雰囲気が出来ている。10 分間と短い時間ではあるが、集中して本を読む力が培われている。

〈課題〉

図書館がオープンスペースということもあり、いつでも気軽に本を手に取れるという利点があり、１学年は図書館への来館者数が多かったが、他学年では来館者数が少なかった。授業での積極的な図書の活用を促すなど、様々な本に触れる機会を作ることが必要であると考える。

「充実した読書活動のための図書館づくりを目指して」

大船渡地区 SLA　大船渡市立大船渡中学校

1　学校図書館の概要

本校は生徒数１２５名からなる学校である。学校図書館は２階にあり、教室棟からやや離れたところにある。貸し出し業務は学習委員が昼休みに行い、放課後は貸し出しはしないが開放して利用できるようになっている。年間を通して朝読書を実施しており、図書館から借りた本を学級文庫として教室に配置している。

市から図書ボランティアが派遣されており、今年は来年度の末崎中学校との統合を見据えた蔵書整理や廃棄、図書室の整備を中心に活動を行っている。

2　具体的実践内容

（1）図書ボランティアの活用

図書ボランティアには一昨年から来ていただき、未登録の本の整理や、来年度の統合に向けた蔵書整理や廃棄も進めていただいている。図書室全体の配置や特設コーナーの設置、また選書でも不足しているジャンルや生徒が興味をもちやすい本などのアドバイスをいただいて、本の購入の際の参考にするなど、ボランティアとしての豊富な経験を活かし、図書館運営全般に携わってもらっている。

（2）市立図書館との連携

市立図書館で行っている配本事業を利用し、様々な本に触れる機会を増やしている。また、教員からのリクエストを基に市立図書館から本を借り、校内で紹介することもできた。

（3）配架の工夫

図書ボランティアに協力していただき、「いわ１００」のコーナーや、季節に合わせた特設コーナーを設置することができた。哲学の本をカウンター奥に配置するようにしたり、背の低い本棚を置き、その陰になるように机を並べたりすることで、生徒が読書に没入できるような環境づくりを行っている。

（4）委員会活動と連携した図書室の利用

委員会の活動の中でおすすめ本紹介を行い、教室の近くに本と一緒に掲示した。また、学級文庫を選ぶ際にも学級内で呼びかけをし、委員以外も選書に携わる機会を設けている。

3　成果と課題

【成果】　様々なジャンルの本をそろえたり、配架を工夫したりすることで、図書館利用を促すことができた。また、統合に向けた蔵書の整理を進めることができた。

【課題】　図書館を利用する生徒に偏りがあるため、様々な生徒が自由に図書室に集まれるように、選書や空間づくりを工夫する必要がある。また、学習センターとしての機能が充実していないため、教科や調べ学習で利用できるような本を購入したり、それを教員にも発信したりするなど、より一層の工夫が必要である。

「児童生徒が進んで通いたくなる図書館（本の森）運営」

釜石・大槌地区ＳＬＡ　大槌町立大槌学園

１　学校図書館の概要

本校は、児童生徒数５７８名の中規模校である。２０１５年４月から小中一貫教育校としてスタートし、２０１６年４月からは義務教育学校となる。１年生から９年生（中学３年生）の児童生徒が共に生活している。

図書室は２階建て校舎の１階のほぼ中央に位置している。蔵書冊数は約１万８千冊である。図書室を「本の森」と名付け、椅子を多く配置し、子どもたちが本を手にとり、くつろいで読書ができるように工夫している。また、新しい本やおすすめの本をカウンター近くに配置し、本を手に取りやすいように工夫している。

２　具体的実践内容

（１）図書ボランティアとの連携

月に一度、図書ボランティアグループによる「本の森」内の環境整備活動が行われている。ハロウィンやクリスマス、正月など季節に合わせた装飾が施されている。本の森の出入り口にも装飾がなされ、児童生徒が本の森へ導かれるよう工夫していただいている。

また、今年度は週に２日程度、個人の図書ボランティアによる本のコーティングが行われている。図書支援員が本のコーティングに充てていた時間を他の図書業務に充てることができるようになった。

（２）図書委員会の活動

本学園では５年生から委員会に所属し、５・６年（前期）、７～９年（後期）に分かれて活動している。図書委員会では、本の貸し出し当番活動の他に、本の整理整頓や修繕作業を行っている。また、全校児童生徒が本に親しめるような活動にも力を入れている。今年度は、図書委員による「おすすめの本の紹介」コーナーを設置した。カウンター脇に本の内容が書かれたポスターと該当の本をセットにして掲示し、目に留まりやすいようにした。また、低学年・中学年・高学年を対象に本の読み聞かせも行った。さらに、１１月に読んだ冊数が多かった児童にしおりのプレゼントをする企画も行うことができた。前期と後期が一緒になって行う「コラボ企画」では、前期後期の図書委員が本の森に集まり、本の整理整頓を行った。今後も義務教育学校の特性を生かした活動をもっと増やしていきたい。

３　成果と課題

前期課程（小学生）の児童は、本の森に足を運ぶ習慣ができており、本が身近にあるように感じる。また、今年度から、学期ごとの目標冊数を掲示し、目標冊数に達成した児童には、目標冊数達成賞を渡している。工夫を交えながらより多くの児童が本の森を利用できるようにしていきたい。

後期課程（中学生）の生徒は、昼休みに集会や諸活動があるため、本の森に足を運ぶ機会が減っている。また、週一回の朝読書の時間に自分で本を持ってくる生徒が少ないのも現状である。そこで、今年度途中から、学級文庫の設置を行った。後期図書委員会の生徒が選書を行うことで、生徒の興味関心にあった本を選ぶように努めている。今後は、後期課程生徒向けの図書を充実させ、学級文庫の充実を図っていきたい。

「目指す図書館像を明確にした学校図書館運営の工夫」

宮古地区ＳＬＡ　宮古市立第二中学校

１　学校図書館の概要

本校では、目指す図書館として、「《出会える》図書館」「《つかめる》図書館」「《訪れたい》図書館」「《力がつく》図書館」を掲げ、週２回勤務の学校図書館支援員の協力の下、学校図書館の整備・充実を図るため、下記の活動を行っている。

２　具体的実践内容

（１）《出会える》図書館

ア　毎月１回の図書室だよりや、学習委員会による図書だよりの発行

新刊本の紹介や、季節の行事にあった本の紹介を行っている。

イ　長期休業前の「本の福袋」「本のサプリメント」企画

先生方がお薦めする本を封筒に入れ、選ぶことを楽しみながら読書の幅を広げられるような企画を行っている。

ウ　朝読書の取組み

各学級に学級文庫として図書館支援員が選書した本を 20 冊常備し、定期的に入れ替えている。また、週１回、学年ごとに図書館を利用する曜日を決め、図書館で読むようにしている。

（２）《つかめる》図書館

教科の単元で使いたい資料について図書館支援員に相談し、コーナーを設けたり、意図的に学級文庫に配架したりしている。

（３）《訪れたい》図書館

ア　掲示板の工夫

図書館前廊下や、生徒の往来が多い廊下の掲示板を活用し、季節ものの企画展や生徒・教員から募った「推し本」の紹介を行っている。

イ　選書の工夫

生徒のリクエストを募ったり、映画化された本など話題の本を多く取り入れたりするようにしている。

（４）《力がつく》図書館

育てたい読書力を「本を選ぶ力」「本を多読する力」「本で考える力」と捉え、上記（１）～（３）の取組を行っている。中学生という成長段階に即して、自分の見識を広め、深める本の選択をして読み深めたり、一日の中に読書の時間を作りだして集中して多読する力を育んだり、読んだ本を通して自分の考えをもち深められる力を育みたいと考えている。

３　成果と課題

（１）成果

・「本の福袋」や「本のサプリメント」企画は生徒たちが興味をもち、本を借りることができた。

・週１回、図書館で朝読書を行うことで、昼休み時間になかなか借りに来られない生徒も本を借りることができている。

・図書室だよりや掲示で多くの本を紹介することで、生徒の興味をひくことにつながっている。

（２）課題

・図書館を利用する生徒や読みたい本に偏りがある。また、集中して活字を読む力も弱まってきている。これからもさまざまな取組を通して、生徒の読書の幅を広げられるようにしていきたい。

・タブレット学習の浸透により、情報センターとしての図書館の機能が求められなくなっている。購入してもあまり使われることのない本も増えてきているため、今後、図書館が果たせる情報センターとしての在り方について考えていきたい。

「読書に親しむ態度や読書習慣を育成する取り組みについて」
岩泉地区ＳＬＡ　岩泉町立岩泉中学校

１　学校図書館の概要

本校は全校生徒９５名の小規模校である。校舎２階ホールの廊下を挟んだ向かい側にL字型に本棚を並べた図書コーナーが設けられている。壁がないので生徒はいつでも本を目にしたり手に取りやすい環境である。蔵書は約５５００冊である。令和６年は生徒の希望を参考に図書を購入した。

２　具体的実践内容

（１）朝読書

週５回（生徒朝会のある時は週４回）

８：１５から８：２５を朝読書の時間としている。短時間ではあるが生徒は自分で本を選び、集中して読書に取り組んでいる。

（２）学習委員会の活動

ア、おすすめ本のポップ作成

多くの生徒に読書に親しんでもらいたいという思いから、学習委員が読んだおすすめ本をポップにし図書コーナー入り口に展示している。

イ、読書記録

本の感想や心に残ったシーンを記入し、２階ホールへ掲示している。

ウ、図書コーナーに、おいDayの実施

学習委員会の「図書コーナーに来て本を手に取ってもらいたい」との思いから、昼休みに曜日で学年を指定し、生徒に図書コーナーに来てどんな本があるのか知ってもらう取り組みを行っている。

（３）岩泉町立図書館との連携

移動図書館のかもしか号から月１回学級へ２０冊の本を借りることにより、生徒は毎月学校では所蔵していない本を読むことができる。

また年４回の図書支援派遣を受け、購入本の受付作業など行っていただいている。今年度は「いわ１００」のコーナーも作っていただいた。

３　成果と課題

（１）成果

・朝読書により全校生徒が読書をする時間が保障されている。
・学習委員会の生徒が主体となり読書に親しむ活動が行われている。

（２）課題

・学びフェストの保護者からのアンケート結果によると、家庭での読書習慣が伸び悩む結果であった。家庭での読書取り組みの工夫が必要である。

「自主的に読書する生徒の育成」

久慈地区ＳＬＡ　洋野町立中野中学校

１　学校図書館の概要

本校は、全校生徒　２３　名、４学級（特別支援学級含む）の学校である。図書室は１階教室棟から体育館への渡り廊下手前にあり、生徒の往来が多く、利用しやすい場所である。蔵書数は、約　３，７００　冊で、『いわ　１００』コーナー、新刊図書などを配置している。

図書室は常時開放しており、全校生徒が昼休みや放課後等自由に閲覧や貸し出し学習などに利用できる。また、月に１回の町の巡回移動図書館を利用して各学級に学級文庫として整備している。

２　具体的実践内容

（１）朝読書時間の設定と推進

毎日８：２０～８：３０を朝読書の時間とし、時程のなかに位置付けている。また、各学年に朝読書で図書室を利用する日を設けることで読書に親しむ機会を確保している。

（２）年間読書冊数の目標の設定

生徒個人で目標冊数を設定し、目標達成を目指すように呼びかけている。個人の達成状況を図書室前に掲示し、生徒の意欲につなげている。

（３）委員会による活動

ア　月に１回、洋野町移動図書館「テトラパック号」が来校している。情報委員が学級文庫として１０冊程度借り、管理している。

イ　図書新聞の発行

全校生徒が読書に親しめるよう新聞を３カ月に１回程度発行している。内容は図書室の本に限らず、話題の本や新刊紹介、委員や教師からのおすすめなど多岐に渡る。

ウ　図書イベントの企画・運営

委員会の生徒が企画し、朝読書での図書室利用時や昼休みに行う。今年度はしおり作り、教師のおすすめ本展示、謎解き風本探しを行った。

しおり作り

おすすめ本展示

本探し

３　成果と課題

（１）【成果】年間を通じて朝読書の時間を設けることで、日常的に本を読む機会が確保されている。朝読書を週に1度図書室で行うようにして、図書室利用にもつなげた。興味関心の高い本や生徒が読みたい本を積極的に選定、紹介することができた。委員会の活動を通して生徒の発信で読書に親しむ活動ができた。

（２）【課題】読書はしているが、自発的、主体的にしている生徒が多いとは言い難い状況である。また、図書室の本を借りて読む生徒も少ない。図書室の魅力を高め、読書への意欲喚起となるよう取り組んでいきたい。

「生徒が読書に親しみ、心豊かな生活を送るための環境づくりについて」
二戸地区SLA　二戸市立金田一中学校

1　学校図書館の概要

本校は、学級数５（１～３年各１学級、特別支援２学級）生徒数９３名である。

図書館の蔵書は、6,845冊で蔵書率は101.9%である。図書室は校舎西側２階の奥にある。

蔵書はすべてバーコード管理されており、ポケット図書館で蔵書は簡単に検索することができる。本校は生徒数の減少により伴う委員会の削減により、図書委員会が存在しない。その分の業務を学習委員会が担い、図書室の活用と学習活動の充実を両輪で回している。

2　具体的実践内容

本校では、読書センター・学習センター・情報センター機能を生かした、学校図書館の計画的な活用を明確にした指導を重点としている。そのため、次のようなことを行っている。

(1)　全校生徒の朝読書

毎朝８:20～８:30までの10分間が「朝読書」として設定されている。図書室から借りた本や持参した本を選び、読書に取り組んでいる。読書カードに読書量を記載し、年間及び学期目標冊数を設定し、達成状況を把握している。

(2)　総合的な学習の時間と繋がる読書活動

本校では総合的な学習の時間の活動として、文化祭で全校演劇を行っている。その演劇に、金田一地区にゆかりのある作家三浦哲郎氏が登場する。三浦哲郎の著書「ユタとふしぎな仲間たち」を１年生の４月に全員が読むことになっている。３年間続ける全校演劇の導入として、読書活動を取り入れている。

(3)　図書支援員、町の移動図書館との連携

市教育委員会所属の図書支援員が月に１～２回来校し、蔵書点検や環境整備を行っている。また、月に１回、市の移動図書館「かっこう号」の利用を行っている。特に図書支援員との協力はありがたく、生徒の実態に合わせた図書の選定や季節に合わせた図書室の掲示など、生徒が本を手に取りやすいよう対応していただいている。

(4)　「図書に親しむまち推進事業」との連携

市教育委員会が行っている「図書に親しむまち推進事業」では、市の予算で生徒一人に一冊の贈呈本を配布している。贈呈本のリスト100冊の中から生徒一人ひとりが興味のある本を選ぶことができ、本を購入する機会が少ない生徒も本に興味を持つ機会になっている。贈呈本の見本は図書室に配架されており、生徒は昼休みや国語の授業の中で本を選択し、冬休みの前に生徒に贈呈本が渡り読書ができるようにしている。

3　成果と課題（成果:○、課題:▲）

○　贈呈本や「いわ100」の図書紹介により、新しい本と出会う機会を生徒が持つことができた。

▲　本校のまなびフェストに「年間12冊以上の読書に取り組む生徒」とという目標値があるが、2学期末の時点で達成率は49%であった。年間を通じて図書に親しむ機会を持つ工夫を職員と生徒が一丸となって考え、取り組んでいきたい。

令和６年度
学校図書館の活用にかかる
実　践　事　例　集

令和７年３月１日発行

岩手県学校図書館協議会
〒020-0851　盛岡市向中野二丁目 39 番 27 号
（盛岡市立向中野小学校内）
TEL　019-635-8510
FAX　019-635-8512
E-mail　info@iwate-sla.jp